

# さんぽみち

## 発行者

兵庫県立総合リハビリテーションセンター  
リハビリテーション中央病院  
〒651-2181 神戸市西区曙町1070  
TEL (078) 927-2727  
FAX (078) 925-9203



## 院長退任のごあいさつ

前 兵庫県立総合リハビリテーションセンター  
リハビリテーション中央病院 院長 司馬 良一



今年3月31日付をもちましてリハビリテーション中央病院院長を退任いたしました。院長在任中はセンターの理念のもと、良いリハビリテーション病院、満足いただけるリハビリテーション病院になるように微力を尽くしてがんばって参りました。第三者評価であります日本医療機能評価機構による病院機能評価認定を受け、またリハビリテーションの付加機能評価の認定も受けましたが、まだまだ十分であるとは思っておりません。

4月1日より後任院長に井口哲弘副院長が就任いたしております。高い医療技術を持ち、管理能力があるばかりでなく、人間味豊かな整形外科医です。さらに良い、満足いただけるリハビリテーション病院にしてくれるものと確信しております。私同様ご厚誼ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます退任のごあいさつとさせていただきます。

(なお、私は4月1日からセンター所長に就任いたしましたが、外来診療は今までどおり木曜日に行います)



## 院長就任のごあいさつ

兵庫県立総合リハビリテーションセンター  
リハビリテーション中央病院 院長 井口 哲弘

### 『原点復帰からスパイラルステップアップへ』



いつも兵庫県立総合リハビリテーションセンターの中央病院をご利用いただき有難うございます、このたび、司馬先生の後任として病院長に就任いたしました。

昨年6月に当院に副院長として来ましてから、10月に石原先生のご退職に伴う診療部長の兼任、そして今度の院長就任とめまぐるしく変わっておりますが、新たな任務に身の引き締まる思いであります、司馬先生同様いっそうのご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

さて、澤村誠志名誉院長をはじめ多数の方のご尽力により、当院は昭和44年10月に当地に産声をあげました。以後、障害をもたれる方を全人的に復権するという理想に燃えて、総合リハビリテーションセンターとして授産施設(あけぼのの家)、特養(万寿の家)、能力開発センター、福祉のまちづくり研究所、家庭介護リハビリ研修センター、自立生活訓練センターなどの施設を充実させて参りました。そしてこの間、病院長も藤田久夫先生、司馬良一先生と変わり各施設との協力関係も発展してきました。

このたび私が病院長として目指したいことは原点復帰とスパイラルステップアップです、もちろん原点復帰は澤村先生が当院を作られた当時の全職種の構成員が持っていた新しいリハビリテーション施設を作るという意気込みの復活・見直しです、このためには「患者さんになぜこのリハビリが必要なのか」と問いかけを通して、リハビリテーションマインドの積み上げが必要と考えています。さらに、現在の我々は現在の県民のリハビリニーズを的確に捉え、原点には戻るが、そこは既に同じところではなく進化した地点であるというスパイラルステップアップをめざしたいと思っております。言葉では言い表しにくいですが、患者さんが満足していただき、職員が生き生きと仕事ができる、そのような病院を目指します。

よろしくご協力をお願いします。

## 副院長就任のごあいさつ



兵庫県立総合リハビリテーションセンター  
リハビリテーション中央病院 副院長 津村 暢宏

このたび、4月より兵庫県立総合リハビリテーションセンターの中央病院副院長を拝命いたしました。リハビリテーションセンター中央病院には皆様に信頼される病院としての役割を果たしていかなければならないという重大な使命があり、その責任の重さを痛感しております。私は、アメリカ合衆国クリーブランドクリニックでの2年間の留学を終えて、1990年に旧病院に赴任しました。当時は、

現在の中央病院の建設工事が行われていましたが、平成4年に新病院が完成し、その後回復期リハ病棟の開設、給食の選択メニューや土曜リハの実施など医療情勢の変化に対応して病院の体制も変わってきました。皆様のご意見をいただきながら、さらに満足していただける素晴らしい病院にできるよう微力ながら努めて参りたいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

## 『明日のリハビリ病院をともに考えましょう』



兵庫県立総合リハビリテーションセンター  
リハビリテーション中央病院 副院長 加藤 順一

このたび、4月1日よりリハビリテーション中央病院の副院長を拝命いたしました。病院に勤務する一人の医師という昨年度までの思いとは異なり、その職務の重責に身も心も引き締まる思いであります。何分、若輩者ではありますがよろしくお願いいたします。

少し自己紹介をさせて頂きたいと思っております。私は、内科医師になって二十一年になりますが、その三分の二を当病院で勤務してまいりました。リハビリテーション医療において「患者さま本位の医療」を当たり前のように提供することが、いかに大変なことであるとともに重要なことであり、そしてそのことが医療人として何より価値あることと信じ「医は仁術、医学は科学」をモットーに従事して参りました。患者さまやご家族の笑顔や感謝の気持ちが私の何よりの喜びであり勲章でもあります。

病院スタッフとともに今まで築き上げられた当リハビリ病院の伝統のよい部分は残しつつ、新しいものも積極的に取り入れ、リハビリテーション医療に貢献できるよう研鑽を積んでいきたいと思っております。

## 診療部長就任のごあいさつ



兵庫県立総合リハビリテーションセンター  
リハビリテーション中央病院 診療部長 谷崎 俊郎

今年度より診療部長を拝命いたしました。歴代の診療部長を思い起こしますとその時の体制が違ふこともあり活動内容はそれぞれ少しずつ異なっているように思われます。これからどういうふう活動していくか思案中ではありますが、トップとスタッフ、診療部と他部門との調整役的な役割を担いながら自分なりの診療部長を演じる以外ないと考えております。私には院長及び両副院長のようなリーダーシップはありませんが、少しでも患者さんに快適でかつ医療レベルの高い病院と言われるように努力してまいりたいと存じます。

院内をうろろしておりますのでどうぞお気軽に声をおかけください。ご指導ご鞭撻よろしくお願い申し上げます。

## リハビリテーション西播磨病院就任のごあいさつ



兵庫県立西播磨総合リハビリテーションセンター  
リハビリテーション西播磨病院 院長 横山 和正

この4月から、県立西播磨総合リハビリテーションセンターリハビリテーション西播磨病院に赴任しております。長々しい名称ですが通称ができるまでは、耐えてお聞きください。神戸市西区の総合リハ中央病院には、昭和61年から勤務させていただき、平成16年4月から新病院の準備のため県庁との兼務になりましたが、この3月まで20年間お世話になりました。勤務を始めた頃の病院は、現在の自立訓練センターのところに建っており、澤村院長の強力な指導下で知らず知らずのうちに診療にリハビリテーション的な考えを持つようにならなりました。平成4年に新しく大きい病院となり、平成7年に就

任された藤田新院長のもとで取り組まれた病院機能評価や回復期リハ病棟への転換など、忙しく日々が過ぎ、気が付いた時には西播磨に着任してまいりました。

西播磨のセンターは、100床のリハビリ専門病院、研修交流センター、スポーツ施設(愛称:ふれあいスポーツ交流館)からなり、診療開始は7月です。診療医師は、藤田久夫所長(整形外科)、本岡龍彦顧問(循環器科・内科)、佐浦隆一副院長(リハビリテーション科・整形外科)、柿木達也診療部長(高次脳診療)、逢坂悟郎総合相談室長(リハビリテーション科)、金澤慎一郎医長(整形外科)、石川晴邦医長(リハビリテーション科・整形外科)そして、私、横山和正(神経内科)の8名でスタートします。外来、入院ともに、紹介を原則としますが、県民のご期待に応えられるように医師団をはじめ職員全員が一丸となって開院の作業を進めております。ふれあいスポーツ交流館は、25メートル7レーンの温水プール、バスケットボール2面がとれる体育館、筋肉トレーニング室からなり、昨年開館しており、多くの高齢者や障害を持つ人々にご利用をいただいております。

西播磨病院を、総合リハ中央病院同様、宜しくよろしくお願いいたします。